

「ワークショップコレクション in やまぐち 2021」 出展報告

令和3年11月13日～14日 山口県セミナーパーク

岡田 秀希

製作技術課

1 はじめに

山口県からの依頼を受け、標記イベントにブースを出展した。このイベントは、子どもたちが自分の興味やアイデアに基づいて、試行錯誤しながらモノを創るクリエイティブな体験を重ね、想像力や創造力、表現力を高め、好奇心や探究心を伸ばす取組を推進するため、県内の企業や団体、個人等が連携・協働して、幼児や児童に対しクリエイティブな体験(ワークショップ)の場を提供することを目的としている。

2 イベント概要

開催期間:令和3年11月13日(土)、14日(日)の2日間(会場準備:12日(金)午後)

主催:ワークショップコレクション in やまぐち実行委員会

(構成団体:山口県、山口県教育委員会、山口県経営者協会、山口大学、山口県立大学、山口県ひとづくり財団)

会場:山口県セミナーパーク(山口市秋穂二島1062)

出展数(ワークショップ):40ブース

来場者:幼児・児童および保護者 約4,000人



3 ブース運営

出展タイトル:長州科楽維新プロジェクト ～ビーズでストラップ作り～

内容:紫外線発色ビーズ(ケニス UV-AST)を使ってストラップを作り、日光に当て発色する様子を観察する。

参加費:無料

出展経費:106千円(内訳:工作材料、衛生用品、協力者謝金)

運営スタッフ:8名×2日

体験人数:合計388人

表1. 時間帯ごとの工作数

時間帯	13日(土) 午前	13日(土) 午後	14日(日) 午前	14日(日) 午後
提供数	92個	103個	113個	80個

今回は施設内の比較的広い部屋を割り当てられたので、6つの島(工作机)を分散して設置し、それぞれに1名以上の指導スタッフを配置した。工作指導には、本学の学生(常盤キャンパス2名、吉田キャンパス4名)に加え、NPO 法人山口県アクティブシニア協会会員の協力を得た。



図1. ブースの設営 (リハビリテーション実習室, 200 m²)

4 工作内容

最初の1個のみ事前に太さ1mm、長さ16cmのゴム紐を通し、結び目を残したまま輪にしておく。子どもたちは結び目の方からアイロンビーズ(パーラービーズ)と紫外線発色ビーズ(UVビーズ)を交互に通していき、最後にカニカン付き携帯ストラップを掛けて完成となる。手作業は単純にゴム紐にビーズを通すのみなので、幼児でも簡単に短時間で完成させることができる題材である。なお、実際の工作の所要時間は5~8分であった。UVビーズは屋外で直射日光に当たると、わずか数秒でも発色する。屋内に入ると約5分で発色前の状態に戻る。

雨天など日差しが弱い場合も想定して発色を確認するためのブラックライトを準備していたが、当日は晴天で日光に恵まれたので、実際にはブラックライトの出番は無かった。



図2. 工作手順 (左 → 右)



図3. 発色の様子

5 感染防止対策

工作に必要な材料は、事前に一人分をチャック袋に小分けして用意し、他の参加者との物を介した接触の機会を防いだ。個別に袋分けしたことで、体験人数を正確に把握することが出来た。

ブースの入場口には、レゴブロックを使った2種類の非接触アルコール噴射ロボットを設置し、モノづくりの演習を兼ねて手指の消毒を促した。また、各工作机ではアルコール除菌タオルを用いて用具等の消毒を終始徹底した。

6 おわりに

コロナ禍において当初は開催が危ぶまれていたが、当日は県内の感染者数が下げ止まりした時期での開催となった。計画時の参加登録人数が1/2に縮小されるとともに、綿密な感染拡大対策マニュアルが策定・周知されており、事務局サイドでは徹底した運営がなされていた。実行委員会が一般来場者を対象に実施したアンケート(回収率41.7%)によれば、全体の96%が「良かった」と回答しており、一般参加者にとって満足度の高いイベントとなった。